



ひきつけ

■ 子どもがひきつけると、お母さんは動転してしまいます。このままどうにかなってしまうのではないかと心配です。

■ 最も大事なことは冷静になることです。子どものそばを離れないことが大切です。

■ 急に抱き上げたりせずに、衣服のボタンをゆるめて楽な姿勢で寝かせましょう。嘔吐しそうだったら、吐物をノドにつまらせないように、体を横向きにして寝かせましょう。

■ 子どもは舌をかんだりする心配はありませんから、口の中に手を入れたり、何かをかませたりする必要はありません。

■ ひきつけの様子を良く観察しておきましょう。

- 何分くらいか？ □ 体は震えていたか？
- 体を硬くしていたか？
- ひきつけは体の左右対称に起こっていたか？
- 熱は何度くらいあったか？

ひきつけにもいろんなタイプがありますが、最も多いのは**熱性けいれん**です。

- 眼が一点を見つめたままになってしまう。
 - 呼びかけても答えない。
 - 体をつっぱって硬くなる。
 - 体ががたがたとふるえる。
 - 口の回りが紫色になる。

■ 熱性けいれんは数分間で止まります。1分が1時間くらいに感じられますが、お母さん気をしっかり持ってください。

熱性けいれんの予防

■ 熱性けいれんは子どもだけでなく親にとってもいやなものです。熱性けいれんを起こした子どもの3人のうち1人がけいれんを繰り返す可能性があります。

■ 2回以上けいれんを起こした時は、けいれんの予防を選択することができます。熱の出始めに抗けいれん剤を2回使用する方法です。

熱が□37.5度以上
□38.0度以上
に上がったら

抗けいれん剤
#1 ダイアアップ
□4mg □6mg
時 分

熱が8時間以上
続く

8時間後
#2 ダイアアップ
時 分

■ その後熱が続いても抗けいれん剤は合計2回使用すれば3日間は予防できます。

■ 抗けいれん剤の副作用は眠くなったり、ふらふらしたりすることです。子どもから目を離さないように！

■ 脳波などの精密検査が必要なとき。

- 体温が38度以下で起こった
- 体の片方だけ
- 15分以上続いた
- 24時間以内に繰り返した
- 6カ月未満の乳児
- 1年間に4回以上起こった

